

令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 理科

改善の重点

- ①「問題解決の過程」を踏まえて、単元及び1単位時間で育成を目指す資質・能力を明確に設定し、単元の指導と評価の計画を作成すること。
- ②単元を見通した指導と評価の計画をもとに児童の学習状況を適切に見取り、指導の改善や資質・能力の育成につなげること。

1 設定理由

小学校理科の学習においては、児童が自然に親しみ、自然の事物・現象への興味・関心を高めつつ、そこから問題意識を醸成し、観察や実験を通して主体的に追究できるようにすることが重要である。

右は、小学校理科の「問題解決の過程」の例を示しており、この過程の中で、児童の「問題解決の力」が育成される。学習指導要領には、学年を通して主に育成を目指す「問題解決の力」が明記されており、授業者が「問題解決の過程」のどの部分を重視し、児童に「どのような力を身に付けさせたいのか」を明確にした上で、単元及び1単位時間の授業を構想する必要がある。また、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視し、単元の導入や終末で、自然の事物・現象と児童の生活経験とを関係付けるなどの手立てを講じることが大切である。

そして、授業時の様子や児童の記述などから学習状況を適切に見取ること、指導の工夫・改善や資質・能力の育成につなげることが重要である。1人1台端末を活用する際も、単元などの中で指導の効果が高まる場面を見極め、指導者が意図をもって活用場面を位置付け、目指す資質・能力の育成につなげることが求められる。



2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ①「問題解決の過程」のどの学習活動を重視するかを踏まえた上で、育成を目指す資質・能力を明確に設定し、単元の指導と評価の計画を作成すること。その際、単元の導入や終末で、自然の事物・現象と児童の生活経験とを関係付けるなど、授業での学びと日常生活や社会との関連を図るための手立てを講じること。
- ②「おおむね満足できる状況」と判断する児童の具体的な姿を想定した評価規準を設定すること。また、児童の学習活動の様子や記述などから学習状況を適切に見取り、個別の指導や授業改善につなげていくこと。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 「早わかり！単元計画の作成手順」（大分県教育庁義務教育課 Web サイト）
- ③ 理科映像事例集（国立教育政策研究所ウェブサイト）